

# CNA Report Japan

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター 展示会レポート 2003 年 9 月

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2003 Kay Office All rights reserved.

## 展示会レポート

### Computex Taipei 2003

#### Taipei International Computer Show

2003 年 9 月 22 日-26 日 台湾台北世界貿易センター

<http://www.taipeitradeshows.com.tw/computex/>



展示会場(Hall 1)

### Computex、出展企業数は、1241 社前年度より増

今回の Computex には、22 日と 23 日の 2 日間行ったが、その後、24 日に成田経由で北京へ飛んだ。北京では 25 日から 27 日まで DVComm 2003 と呼ばれるテレビ会議専門の展示会が開催されたので参加した。

今号では、Computex について報告するが、DVComm については、次号 10 月 15 日号でレポートする予定。

Computex は、コンピューター関連の展示会で、今年は前回よりも出展社数が、当初開催の 6 月開催から 9 月に延期されたにもかかわらず、1200 社以上の出展企業。会場はホール1からホール3まで所狭しとブースがならんだ。22 日、23 日と会場は非常な数の人で混雑し、歩くのも大変という感じだった。歩いていると時々日本語が聞こえてきた。日本からも来ている人が結構いるようだ。欧米からも多かった感じがする。

この展示会は、日本の日経 BP 社もスポンサーになっているようで、会場は日本人専用の受付から、会場で配布さ

れているデイリー新聞(無料)には、日本語版もあった。

### 台湾通信工業股份有限公司、IP テレビ電話

台湾通信工業股份有限公司(TTIC)のブースでは、TIA-8000、TIA-8800、TIA-2200 などの IP テレビ電話が展示されていた。同社は、台湾 TATUNG 社と NEC の合併会社で、1958 年に設立。テレビ電話以外にも GSM 公衆電話機、FAX、VoIP ゲートウエイ、VoIP ホン、などさまざまな通信機器を開発している。



TIA-8000

TIA-8000 は、6.8 インチの TFT モニタを搭載し、128kbps から 768kbps の帯域をサポート、H.323v2 対応(H.263+)。音声は、G.723.1 対応、エコーキャンセラ内蔵。映像、音声入出力コンポジット。

TIA-8800 は、4 インチか 2.5 インチ TFT モニタ内蔵、64kbps から 768kbps までの帯域をサポート。映像は、H.323v2(H.263+)、音声は、G.723.1、G.711、G.729 に対応。映像、音声入出力コンポジット。IP テレビ電話だけでなく、通常の電話として、また、IP 電話としても使える。

TIA-2200(写真下)は、セツトトップタイプのテレビ電話で、テレビモニターの上などに設置して利用するタイプ。



TIA-2200

スペック的には、H.323v2 (H.263+)、128kbps から 768kbps の帯域に対応。音声は、G.723.1 対応、エコーキャンセラ内蔵。映像、音声入出力コンポジット。マイク、スピーカ端子、Sビデオ入力端子、VGA 出力端子などを備える。画像フォーマットは、TIA-8000 と TIA-8800 と同じく、CIF、QCIF、SQCIF に対応している。

TIA-8000 を使って、同社の中国上海のオフィスとの接続デモを行ってもらったが、300kbps くらいの接続で、映像も音声も結構良かったと思う(この評価は主観的なものなので人によっては評価が変わるかもしれない)。テレビ電話中に、接続中の帯域使用状況などの数値は画面向かって右側に表示することもできる。ただ、筐体が大きいの持ち運びがちょっと大変かもしれない。

TIA-2200 のデモも行ってもらったつもりだったが、デモ端末がフル稼働だったこともあり、また時間的な都合でできなかったが、TIA-8000、TIA-8800、TIA-2200 の中で TIA-8000 を大々的にプロモーションしていた。



TIA-8000 を並べて展示する台湾通信工業

## 慧達通訊科技股分有限公司、MPEG4 対応 PC テレビ電話

慧達通訊科技股分有限公司 (APLUX) は、H.323 対応の PC テレビ電話 (i-See ビデオフォン MU2-48VP) を展示していた。映像コーデックは、デモでは MPEG4 であったが、H.261 も対応。今後は H.263 も開発プラン上にある。帯域は、512kbps までサポート。

日本語が話せるセールスマネージャーの郭峻寧氏によると、ソフトウェアは、40USD (約 4,500 円) で、ヘッドセットとウェブカメラが付いてくる。写真上は、MPEG4 による IP テレビ電話デモで、同社の上海オフィスと接続。



上海との MPEG4++によるテレビ電話 (MU2-48VP)

写真は大型フラットモニターにノートパソコン画面の映像を映し出しているところ。そのノートパソコンにソフトウェアがインストールされている。300kbps くらいの接続だったが、音声も映像も非常にクリアー。ホームユーザーをターゲットとしているようだが、ビジネスでも十分使える感じ。この写真は、「写真を撮りますから」ということでポーズをとってもらった状況だったが、このデモは結構な数の人が見ていた。モニター画面には、「DVD クラスの映像と音声のクオリティ」と書かれていた。

付属のカメラには、テレビ電話だけでなく、映像録画、スナップショット撮影、ビデオメール、AVI ファイルを MPEG ファイルに変換する機能、デジタルアルバム、フォトエディタ機能なども入っている。

## 奘億科技股份有限公司、ウェブ・ビデオフォン

2002年2月に設立されたばかりの台湾メーカー、奘億科技股份有限公司 (AMTEK) は、10.4インチモニタとウェブカメラを搭載した「ウェブ・ビデオフォン」プロトタイプ of 参考出展をした。(次ページ写真は特別許可)

ウェブ・ビデオフォンは、画面部であるウェブパッドとそのウェブパッドを載せるクレードル部分、そして900Mhz帯コードレスホンがーセット。

IPテレビ電話、インターネットサフィン、メール、掲示板、アクセサリ、などの機能をタッチパネル画面となっているためスタイラス(向かって右側横から取り出す)で操作する。画面の縁には、マイクとスピーカが内蔵されているが、電話の時はコードレスホンを使うことも出来る。



Web Videophone

ウェブパッドとクレードル間は、IEEE 802.11b で接続。使われている CPU は、Transmeta 1.0GHz、OS は CE.NET 4.2、64MB の CF カード、メモリーはオンボード 128MB DDR RAM (MAX.256MB)。テレビ電話は、H.323v4 (H.261 サポート。H.263 は今後サポート) に対応し、SIP は現在開発中。音声コーデックは、G.711 に対応しているが、今後 G.723 と G.729 にも順次対応させるとのこと。カメラは、CMOS センサー搭載。

また、インストールされているアプリケーションとしては、マイクロソフトエクセル、パワーポイント、ワード、PDF、イメージなどのビューワー、メディアプレーヤー、ウィンドーズメッセンジャー、文字認識、VoIP 電話などもインストールされている。

展示されているプロトタイプは、日本語インターフェイス

で説明して頂いた同社社員の方は、「日本での販売を視野に入れている。」と言っていた。理由としては、日本では ADSL などのブロードバンド環境が進んでいるから。現在日本でのパートナーを探しているとのこと。

無線 LAN でウェブパッドとクレードルを結んでいるので家の中で、どこでもワイヤレステレビ電話が可能。ちなみに、「これでテレビが見ることができますか？」と聞いたところ、テレビは今のところ考えてはいないけども、結構おもしろいかもしれないと言っていた。

## 遠隔監視系では MPEG4 を散見

圓剛科技股份有限公司 (AVerMedia) など数社では、MPEG4 や MJPEG をサポートした遠隔監視サーバーの展示を行っていた。圓剛科技股份有限公司の MP3000、MP5000 では、1 から 16 カメラ表示、MPEG4、MJPEG に両対応。また、Smart Guard は、MPEG4 のみ、NC2004 は、MJPEG のみに対応している。SG と NC2004 は 4 カメラ表示に対応。



会場内のモニタリングによるデモ

## まとめ

ビジュアルコミュニケーション系は、H.323 や MPEG4 テレビ電話、遠隔監視系などが展示されていたが、音声会議端末系は、前回の CAN Report Japan Vol.5 No.15 で Taipei Telecom のレポートをしている TECOM DU8806S がひとつ出展していたのを確認した。

MPEG4 と H.261 をサポートした IP テレビ電話は慧達通迅科技以外では聞いたことがないが、ハイエンドのテレ

ビ会議だとソニーの PCS-1 は MPEG4 をサポートしているがその他欧米メーカーではサポートされた端末はない。中国では、MPEG4 をサポートした MCU (多地点接続装置) を開発している中国メーカーがあったが、近い将来テレビ会議システム、テレビ電話と MPEG4 を標準で搭載する時代が来るかもしれない。

台湾通信工業のテレビ電話は、デモをしてくれた人の話からすると、あまり日本進出を意識してはいないようだったが (NEC との関係からか?)、他社の製品については、可能性があれば是非日本での販売機会を持ちたいという声をよく聞いた。しかし、海外メーカーにとって日本市場は門戸が厳しいという印象が多い。

次回、10月15日号は、北京で9月25日から27日まで開催されたテレビ会議をメインとした DVComm China 2003 をレポートする。40社程度の出展で、ソニー、タンバーク、ポリコム、CRESTRON、VTEL などが出ていたが、それ以外は、中国企業で、PC ベースのテレビ電話、ウェブ会議から、MCU、ゲートウェイやゲートキーパーなどを開発しているところが何社かあった。監視系もいくつか展示していた。40社というと、アメリカの Telecon がなくなったので、この DVComm が今のところ世界最大のテレビ会議展示会になるのではないかと思う。

(Computex レポート終わり)

CNA Report Japan (シーエヌエーレポート)

編集長 橋本 啓介 [k@cna.jp](mailto:k@cna.jp)

(CNA Report 展示会レポート 2003年9月)